

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272300773		
法人名	有限会社メープルの里		
事業所名	グループホームメープルの里なみおか		
所在地	〒038-1344 青森県青森市浪岡吉野田字木戸口52-12		
自己評価作成日	平成24年11月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成24年12月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様個々の気持ちを汲み取り、その時々で個々にあったケアを提供できるように努めています。常に笑顔で明るく接するようにしています。又、挨拶を奨励しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>入居者・職員共々笑顔で明るいグループホームである。法人の理念、ユニットの理念を職員全員で共有しており、「利用者の気持ちに寄り添う」「本人の意向の把握」を重視し、実践している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念を玄関、事務室、ホールに掲示している。ユニット別にも理念を作成し掲示している。スタッフもそれに向け実践している。	開設当初からの法人理念と、ユニット毎の理念を掲げている。理念は毎朝の申し送り時に唱和し、共有されており、利用者の尊重・地域とのふれあい・家族からの信頼を目標に実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板を回したり、地域の催し物に参加するなどしている。	回覧板回し、小学校の学習発表会の見学、地域行事へ参加をし、交流を図っている。また、職場体験等要望があれば受け入れをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学生の受け入れがなく、学校に対して受け入れができるアピールを示していく。催しの行事があれば参加をしていく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に一回、第3金曜日を基準にホームにて開催している。又、会議で出た意見、要望を取り入れるようにしている。	2ヶ月に1回、日時を決めて開催している。メンバーから意見を頂き、出された意見について話し合い、サービス向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月初めには入居者数の報告をしている。又、入居者の事故発生時、取扱いの要綱に従い、第一報として市町村に連絡し、後日事故内容の詳細を説明。サービスの課題等が発生したら、相談し助言を頂いている。	行政への月初めの定例報告には待機者数も報告に加えている。入居者の転倒についてや、処遇に対する判断についてはその都度相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を行っており、理解できている。身体拘束は行っていない。	年間の研修計画に「拘束」について取り入れ、毎年、全員参加で研修を行っている。日々、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に一回以上、定期的に虐待防止法について学ぶ機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に一回、事業所内研修で学ぶ機会を設けている。ただ、活用までには至っていない。スタッフも外部研修へ勉強に行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に丁寧に説明し納得した上で同意を得ている。解約についても、状態の報告・理由について説明し理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望・苦情等、直接お話し頂いている。玄関に「ご意見ボックス」も設け意見を求め、寄せられた物は職員で話し合い早期に回答を掲示、運営推進会議でも報告。重要事項説明書にも苦情窓口を明記している。	家族の面会時には必ず声を掛け、意見、要望の聞き取りを実施している。意見箱も設置しており、出された意見や要望は職員で話し合い、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者の意見は、普段の会話から汲み取るよう努めており、不満や要望については、その都度、話し合い対応をしている。	代表者だけが開ける職員からの意見箱がある。大部分はカンファレンスや職員会議、ユニット会議の場で職員からの要望を管理者が聞き取りしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	大半のことは、現場職員に権限を委譲し、職員は自主的に取り組み、フォローする体制を作りつつある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内での研修を毎月行っており、職員の参加を促している。段階に応じた研修は、外部研修で補っている程度で事業所内では体制作りはできていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、介護サービス事業者連絡会議に出席し交流を図っている。又、GH協会への参加、外部での勉強会に参加し交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談・申請にあたっては、懇切丁寧をモットーに話を伺うよう努めている。又、本人にもホームの様子を直接見て頂くよう家族へお願いし、叶わない場合は、こちらから面談へ行き入居前に必ず顔を伺っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談・申請にあたっては、懇切丁寧をモットーに話を伺うよう努めている。又、本人にもホームの様子を直接見て頂くよう家族へお願いしている。家族の要望等も必ず聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談・申請を行い、待機となることが殆どである為、本人・家族状況等を把握し、他のサービス紹介・提案の実施。希望時は先方に繋ぐ等対応。紹介下さった担当ケアマネ等へは電話報告を入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にする家族というスタンスで臨んでいる。日常の作業を一緒に行ったり、行動や会話から学び、認め合い、感謝し合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族参加の行事を年1回計画し実施しており、楽しいひと時を共有できるようにしている。面会に来られた時は、本人も含めた会話を持っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出行事には、その地域の利用者を優先させるなど配慮している。友人が面会に来られた際、本人と会話をもち関係が保たれている。	友人の訪問を歓迎している。毎日地域のスーパーへ利用者と共に買い物に出かけている。また、入居前から利用している美容院への外出も支援し、関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が助け合う、協力し合う雰囲気があり、良い関係が築かれている。それぞれが役割を持って生活を送っており、職員はそのサポートに徹している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族へは、何かあったらいつでも気軽に連絡・相談下さるよう伝えられている。入院された方には、他利用者の通院時に寄らせて頂いたり、個人的に心配して仕事帰りに面会している職員も多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向で、亡くなったご家族の遺影に毎朝追善をあげる支援をしている方もいる。一人ひとりの思い、希望は可能な範囲で取り入れつつ、生活に反映させるよう配慮している。	入居前からのフェイスシートの他、入居1週間の「24時間生活シート」を作成し、本人の意向把握に努めている。また、センター方式の「思いのアセスメント」欄にも常に希望を記録している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時は基本情報として、本人・家族から情報収集している。又、居宅ケアマネをはじめ、入院や何らかのサービス利用されている方については各事業所より情報提供を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズム・パターンを把握し、変化があれば記録に残している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族には面会時に要望や意見を確認。本人の意向や課題についてはケース記録の「気づき」欄があり、必要なこと等計画に取り入れている。又、ユニットノートを活用し、計画に反映するよう努めている。月に一度、カンファレンスを開き、一人ひとりの課題について話し合っている。	入居時は2週間で計画の見直しをしている。本人の状態に応じて3～6ヶ月のモニタリング・計画書の見直しを実施している。本人・家族から意見の他に、職員の気づき、チェック表を基に検討会を開催している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録により、利用者状況やケアの実践が確認できる。又、記録には「気づき」の欄があり情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り、本人・家族の希望に応じて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物に参加したり、地域消防団や民生委員、警察には緊急時の協力を依頼し了解いただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も可能な限り、かかりつけ医の継続受診ができるよう支援している。変更を余儀なくする場合は紹介状を頂くように、事前に家族へ説明・了解を得ている。	かかりつけ医の継続受診を原則としている。病状の変化で転院の時は、紹介状を頂き継続的な医療につなげている。「受診手帳」を作り受診後の内容を全職員へ伝達を徹底し、家族への説明を実施している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の看護師1名が月2回勤務し、職員は看護師に状況報告を行い、身体的に気になる所は相談しながら健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、ホームでの状況を情報提供している。早期退院が見込まれる場合は家族・医師・ソーシャルワーカー等に入院中の経過等を情報提供して頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期について家族にホームの方針を説明し同意を得ている。又、終末期をするにあたり、医師・家族・本人・管理者で話し合いを行い、今後の意向について相談している。	入居時の重要事項説明書に「重度化対応・終末期対応指針」があり、説明し納得の上で同意を得ている。ターミナルケアは経験があり、医師・家族・職員での話し合いは常に行われており、情報が共有されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	2年に一回の救命講習や年に一回の事業者内研修で課題にして取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、年2回以上の消防訓練の実施。その際、消防団・近隣住民に参加協力を呼び掛けし参加を得ている。又、事業者内研修の際にも災害対策について会議を行っている。	年2回、春と秋に日中想定・夜間想定で実施している。いずれも消防団、近隣住民の参加協力がある。また、ホーム内研修でも災害対策について話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	重要事項説明時もプライバシー、個人情報の項目あり説明している。職員には入社時、個人情報守秘義務について説明している。	職員は入社時に守秘義務同意書を書き、初任者研修でも説明している。利用者へは、尊厳を損ねない言葉かけを行い、無理なくさり気ない対応が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との会話を大事にし、思いを汲み取るよう心掛けている。常に選択・決定権は利用者にあるということを職員は理解している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の気持ちを最優先し、その日の気分・体調なども把握しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月、ホームに理容師が来て散髪。衣類選択は個々にお任せしているが、困難な場合は季節や場面に合わせた物を準備させて頂いている。衣類汚染等が見られる時は、その都度、交換している。化粧品等、希望がある時は一緒に買い物に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好を確認しており、嫌いな物には代替品を提供したり、能力や希望に応じて粥・刻み等で対応している。食事の準備から後片付けまで利用者がそれぞれに役割を持ち率先して手伝って下さっている。	年2回程度、栄養士に献立表を確認してもらい、バランスの取れた食事提供に努めている。個々の嗜好把握に努め、代替え品を工夫している。また、食事の準備、後片付けはそれぞれが役割を持ち、積極的に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日で魚・肉・野菜がバランス良く摂れるよう配慮。日々の皮膚状態・排泄状況や摂取量の確認・月一回の体重測定を実施。嗜好や能力によっては代替メニューを準備し、粥・刻み食を提供し栄養確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は声掛けして歯磨き(義歯洗浄)、うがいの促しと確認をしている。自力で行えない方に関しては介助している。又、定期的に義歯洗浄剤を用いて義歯の清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用しながら、排泄パターンを把握し、必要な方には声掛けやトイレ誘導を実施している。	排泄チェック表で排泄のパターンを把握し、さりげなく声掛けをし、トイレでの排泄に取り組んでいる。夜間はポータブルトイレを活用し座っての排泄を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常的に水分補給、メニューの中に繊維質の物を取り入れるよう配慮。排泄チェック表にて個々の排便状況を把握し、便秘時には水分摂取を促し活動量を増やしている。必要に応じて下剤の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週3回の入浴日が確保されている。時間の希望がある方には、可能な限り対応している。	1ユニットは月、水、金、2ユニットは火、木、土が入浴日に設定されている。どちらのユニットでも入浴が可能な体制で、自分の好きなタイミングでの入浴を楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態により休憩や睡眠を促しているが行動を指示したり、臥床を強要することはない。眠れない方には温かい飲み物を勧めながら会話を持つ等、安心して休める気分になるまでお付き合いするようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診手帳に処方薬の説明書を添付。処方薬変更時等は、記録・申し送りにて伝達し効果や副作用症状の有無確認に努め、主治医に報告。誤薬防止として、薬セット時は2名以上で確認体制をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お膳拭き・食事準備・後片付け・洗濯たたみ・畑作業等、それぞれ役割を持って生活している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日光浴やホーム回りの散歩等、気軽に戸外へ出かけている他、希望があれば買い物にお連れしている。	買い物、外出は希望に応じて支援している。日常的には、ホーム敷地内の庭や広々とした畑などを散歩し、気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手元にお金を所持していないと不安な方もいるが、自己管理が困難な為、ホームで預かり、管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望や状況に応じて職員がダイヤルしてつないだり、遠方の家族から贈り物が届いたりした時は御礼の電話をし交流を広げている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間を毎日掃除・整理整頓を行い、利用者が気持ちよく使用できるようにしている。南側に面したホールの窓からは光が良く入り、ロールカーテンで調整している。毎月、季節に合わせた掲示物を貼る等、季節が感じられる工夫をしている。	共有空間は天井も高く、広くて採光も良く明るい。木質が主体で落ち着きがあり、ソファなど一人ひとりの居場所スペースも確保され、自由にのんびりと過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでゆったり過ごせるよう、ソファや畳が設置されている。利用者にはそれぞれ、くつろいで過ごせる定位置がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者には本人が使い慣れている家具や馴染みの物を居室スペースの許す限り、自由に持って来て頂いている。写真を壁に飾る等して殺風景にならないよう心掛けている。	今までの本人の生活の延長上と捉え、馴染みの物を持ってきていただいている。物入れスペースには、位牌を置いている方や置物を飾るなど、思い思いの居室づくりをされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・居室の場所がわかりやすいよう貼り紙や目印となる物を貼っている。目印は利用者の目線に合わせて調整している。夜間はトイレの電気をつけたままにしている。		